

令和4年度 川南町行政座談会

この町の“気質”から生まれる“品質”



川南
気質

KAWAMINAMI
QUALITY

MADE in JAPAN - MADE by KAWAMINAMI PERSONALITY

令和4年5月開催

川南町第6次長期総合計画(期間:令和3年度～令和12年度)

(総合計画＝持続可能な川南町を創るために、今後10年間の取組について、基本的な考え方を示すもの)

まちの将来像 → 「豊かさを活かし 共に未来を拓くまち かわみなみ」

1

基本理念 → 「共に考え 共に挑み 共に切り拓く」

将来像実現のために、6つの「基本目標」を定めました。

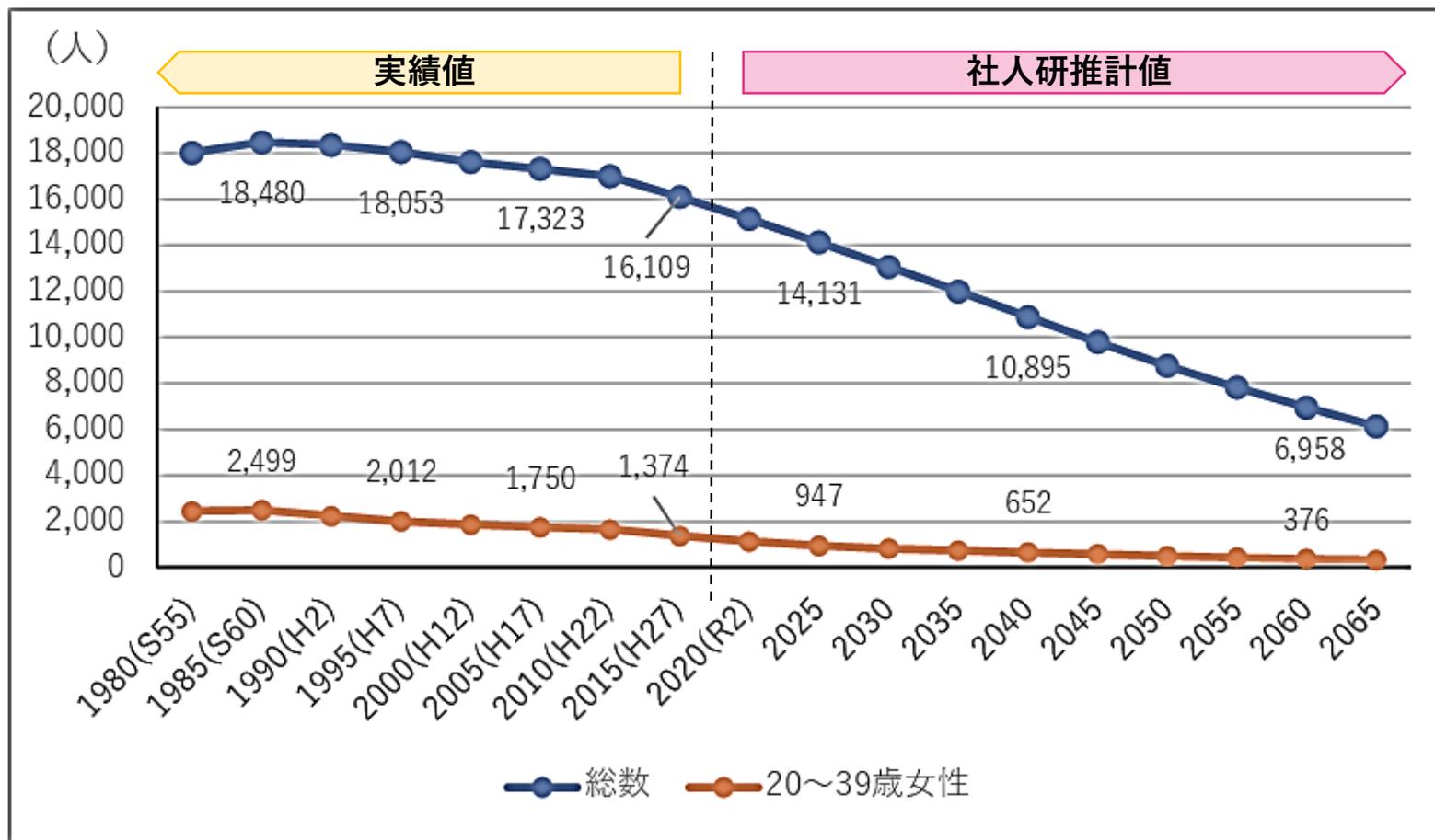
- ① 未来を拓くひとを育むまちづくり……………【ひとづくり分野】
- ② 手を取り、寄り添い合うまちづくり……………【まちづくり分野】
- ③ 地域と人が輝くまちづくり……………【地域資源・産業振興分野】
- ④ 健やかで、自分らしく輝けるまちづくり……………【医療・保健・福祉分野】
- ⑤ 豊かな自然と共生するまちづくり……………【社会基盤分野】
- ⑥ 自立し、未来へつなぐまちづくり……………【地域安全・行財政分野】

本町における人口の現状分析と見通し

(1) 総人口の推移と見通し

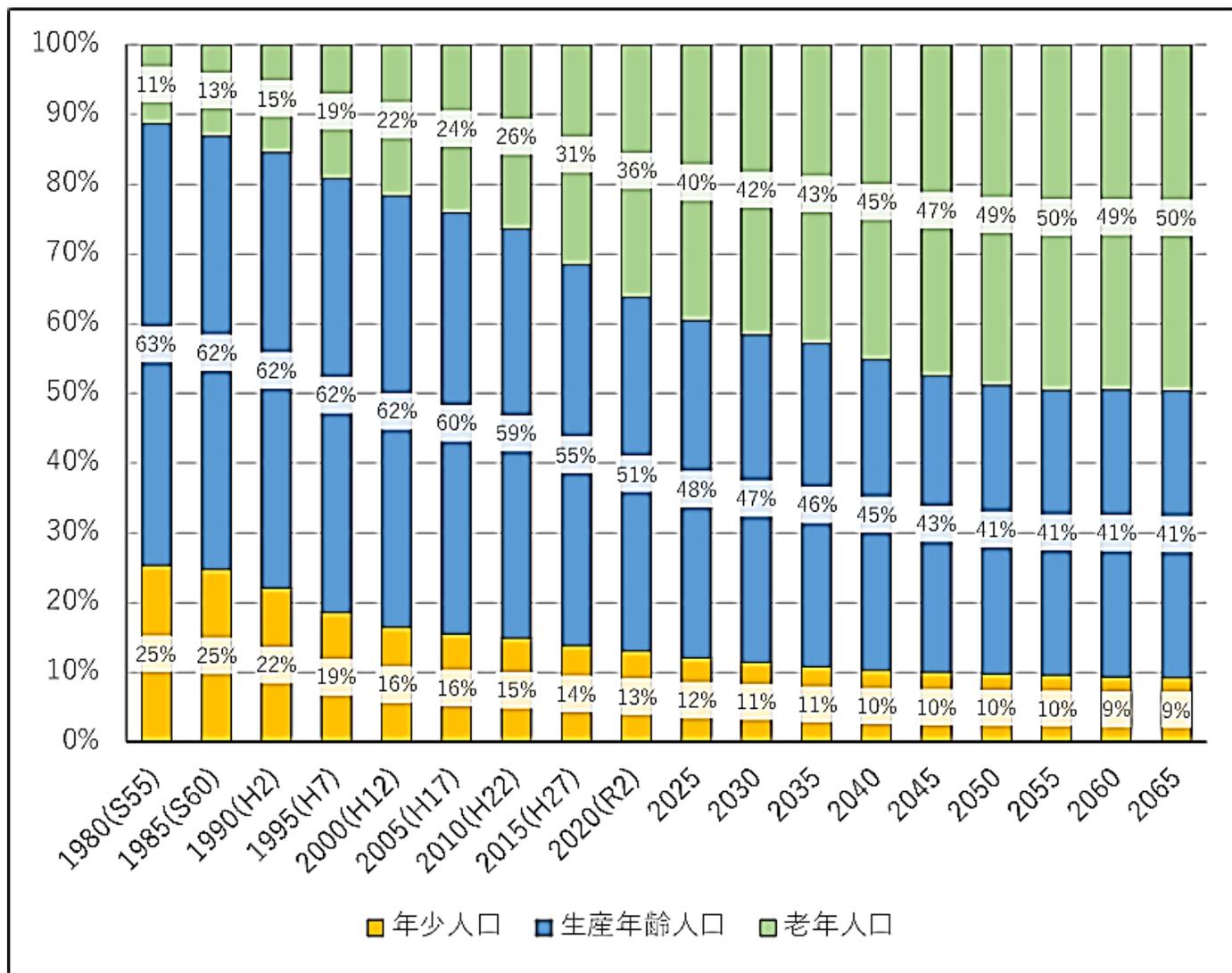
出典：第2期川南町人口ビジョン(第6次川南町長期総合計画(前期計画)別冊)

■総人口の推移と社人研推計■



(2) 年齢3区分別人口の推移と見通し

■ 年齢3区分別人口比率の推移と社人研推計 ■



川南町における年少人口(0歳～14歳)数 令和4年4月1日現在

川南町まちづくり課調べ

現学年	対象出生年度	現年齢	人数	備考
中学3年生	平成19年度生	14歳	157	
中学2年生	平成20年度生	13歳	153	
中学1年生	平成21年度生	12歳	140	
小学6年生	平成22年度生	11歳	153	
小学5年生	平成23年度生	10歳	155	令和8年度、中学3年生
小学4年生	平成24年度生	9歳	151	令和8年度、中学2年生
小学3年生	平成25年度生	8歳	126	令和8年度、中学1年生
小学2年生	平成26年度生	7歳	115	令和8年度、小学6年生
小学1年生	平成27年度生	6歳	114	令和8年度、小学5年生
	平成28年度生	5歳	109	令和8年度、小学4年生
	平成29年度生	4歳	111	令和8年度、小学3年生
	平成30年度生	3歳	105	令和8年度、小学2年生
	令和元年度生	2歳	106	令和8年度、小学1年生
	令和2年度生	1歳	92	
	令和3年度生	0歳	70	



年少人口



年少人口	平成19年度生	平成20年度生	平成21年度生	平成22年度生	平成23年度生	平成24年度生	平成25年度生	平成26年度生	平成27年度生	平成28年度生	平成29年度生	平成30年度生	令和元年度生	令和2年度生	令和3年度生
年少人口	157	153	140	153	155	151	126	115	114	109	111	105	106	92	70

2040年日本の人口は、約1億1千万人との推計

高齢化率35.3% (出所：国立社会保障・人口問題研究所)

2022年4月1日現在 宮崎県の人口は、1,054,020人

2040年宮崎県の人口は、87万7千人との推計(減少率16.8%)

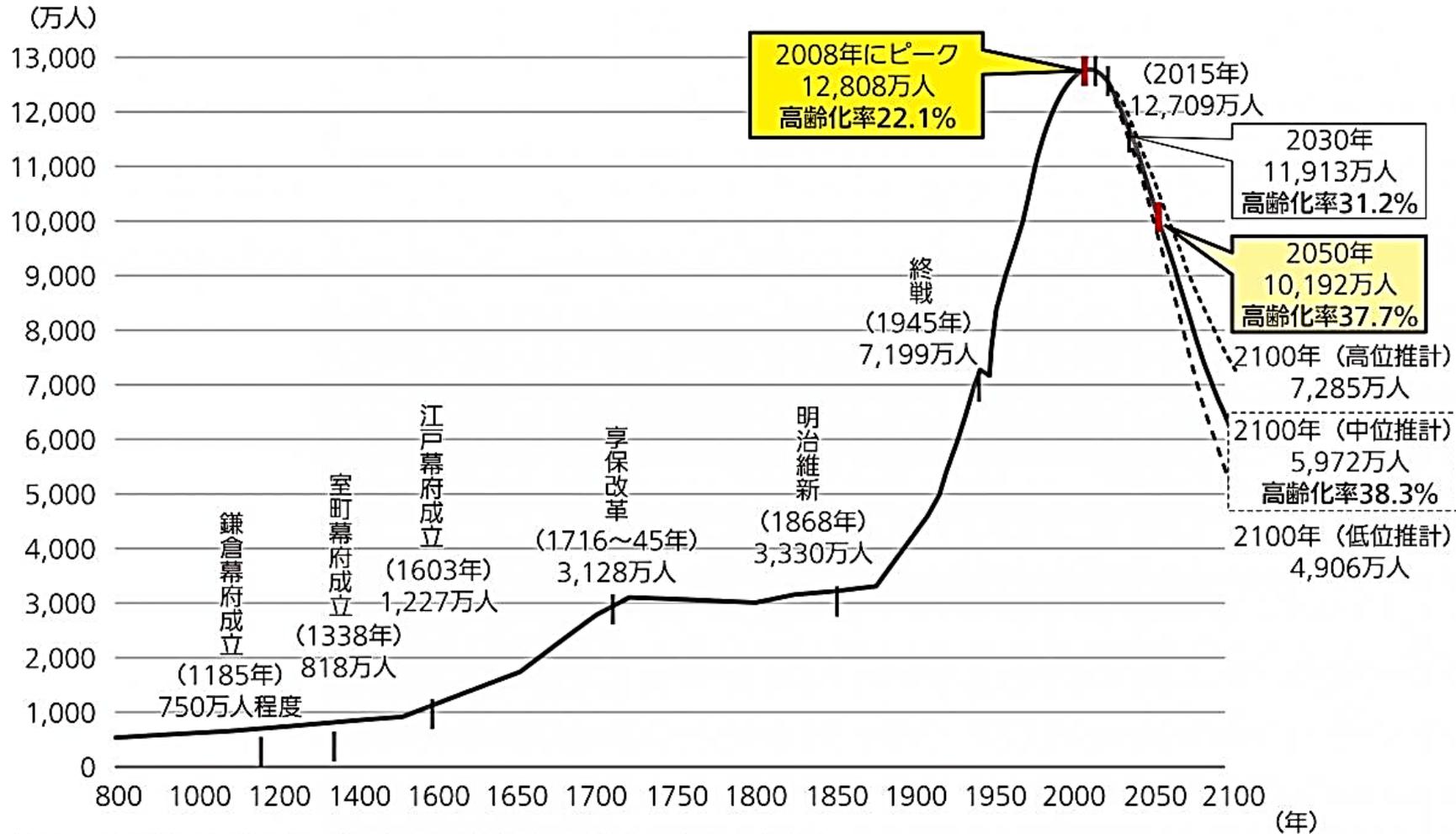
高齢化率38.6% (出典：宮崎県総合計画「令和元年改定」)

2022年4月1日現在 川南町の人口は、14,798人

2040年(18年後)川南町の人口は、12,487人との推計(減少率15.6%)

高齢化率45% (出典：第2期川南町人口ビジョン(第6次川南町長期総合計画(前期計画)別冊)

日本の総人口の長期的な流れ



(出典) 国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)

(注) ただし、1920年からは総務省「国勢調査」、「人口推計年報」、「平成17年及び22年国勢調査結果による補間補正人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年度推計)」により追加

(出所) 国土交通省資料

○世界の人口の現状と予測

2021年、世界の人口は約78億人。

2030年、約85億人。

2050年の推計は、約97億人。

つまり、今後約30年で世界全体としては約20億人増加の見通し。

2100年は、110億人との推計です。

2022年の日本の人口は、約1億2,000万人

8

イギリス、フランスは共に約6,700万人、イタリアは約6,000万人。

イギリス、イタリアは日本より面積が小さい（イギリスは日本の約3分の2、イタリアは約5分の4の面積）。

フランスの面積は日本の約1.5倍

ドイツは日本とほぼ同じ面積で人口は8,300万人強

日本は山林の面積割合が広く、人の住める面積は限られています。

私たちの未来

9

人口減少社会は、“敗北”か？
“衰退”に向かう行進か？

私は人口減少社会を、敗北や衰退だとは思っておりません。

逆に、可能性と希望に溢れている！と考えています。

現状と将来予測をしっかりと捉えつつ、掲げたビジョン

「豊かさを活かし 共に未来を拓くまち かわみなみ」

づくりに邁進してまいります。

そのための令和4年度の具体策等を、次に説明いたします。



～自分と生徒 誰のよう 誰のよう～
一人一人の 生涯学習は第一



生涯学習まちづくり推進計画

川 南 町

「生涯学習を通じた元気なまちづくり」を目指して

本町における生涯学習の総合的かつ効果的な推進を図るため、令和2年4月に川南町生涯学習推進本部を設置しました。

この本部は、町長である私が本部長となり、副本部長には副町長及び教育長を充てるとともに、委員として役場全課の課長及び事務局長で構成する組織としました。

「生涯学習を通じた元気なまちづくり」の目指す基本となるものは「まちづくりはひとづくり」という考え方であります。そのために、生涯学習社会にふさわしいまちづくりを進める、次の4つの具体的な視点を掲げ、計画的に推進していきます。

- (1) 時代の変化に対応した学習機会を整備し、町民に提供するよう努めます。
- (2) 自発的な学習活動（各種講座等）を活発にするための環境整備に努めます。
- (3) 生涯学習によるまちづくりを進めるために、学習成果を生かすよう努めます。
- (4) 役場各課との連携を図り、全庁挙げて総合的な推進に努めます。

この取組を確実に進めるためには、その方向性を示すものが必要であることから、この度、「生涯学習まちづくり推進計画」を策定しました。

「計画とは未来への意思」であると私は思っています。この未来への意思である本計画を基に、「ふるさと川南を愛し、未来を拓く、心豊かたたくましいひとづくり」を前進させていきたいと強く思っております。

令和2年7月

川南町生涯学習まちづくり推進本部長

川 南 町 長 日 高 昭 彦

川南町立中学校統合整備基本計画

平成30年に教育委員会から学校規模適正化審議会に中学校の統合について諮問し、平成31年3月に「答申書」が出されました。そこでは、「中学生にとってよりよい環境」を考えるのは私たち大人の責務との認識のもと「教育の質」「教育の環境」を中心に議論を重ね、「よりよい教育環境」としては、一定の生徒数が確保されていること、経験年数や担当教科などのバランスのとれた教員の確保が望ましいことから、両中学校の統合はやむを得ない」との答申が出されました。

そのことを受け、令和元年6月の定例教育委員会において中学校再編(中学校の統合)について全会一致で可決されました。

令和3年2月には、中学校統合に対する「住民アンケート」を町長と教育長の連名で実施。その結果は、中学校統合への賛成が57.1%、反対は9.6%、わからないが32.9%という結果でした。

なお、新中学校の設置場所につきましては、「サンA川南文化ホール・町立図書館東側周辺に新校舎を整備する」が統合賛成の57.1%を6.5ポイント上回る63.6%でありました。

令和3年5月に教育委員会から学校規模適正化審議会に「川南町立中学校の統合に係る基本方針」と「新設中学校の候補地」について諮問し、令和3年8月に答申が出されました。

基本方針については、「4つの目指す学校像」、「9つの基本コンセプト」について承認され、新中学校の候補地については、「サンA川南文化ホール・町立図書館東側及びその周辺」が妥当であるとの答申が出されました。

令和3年11月の臨時教育委員会で、「新中学校の設置場所」について審議した結果、「サンA川南文化ホール・町立図書館東側及びその周辺」が全会一致により可決されました。

このような流れを踏まえ、町としましては、令和8年度から町内の2校を統合し新中学校を開校する計画です。

項目	内容等
新中学校づくりの方針	<p>本町の恵まれた自然環境の中で、多様な子どもたちの個性が伸び伸びと育つ場とし、夢や目標をもって、その実現に向けて挑戦し続ける「しなやかさ」と「たくましさ」を備え、ふるさと川南そして、宮崎、さらには世界の未来を拓いていく人材を育む新中学校を目指す。</p>

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> (1) 夢に挑み、学び続ける学校 (2) 仲間とともに切磋琢磨する学校 (3) 地域とつながり、地域とともに歩む学校 (4) 誰もが行きたくなるような魅力のある学校
--------	---

基本コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校を核とした地域づくりの推進 (2) 活力ある学校環境づくり (3) 全ての生徒にとって過ごしやすい安心な学校環境づくり (4) 安全に通学できる地域環境づくり (5) 学力向上を目指す充実した教育環境づくり (6) 多様化する社会に対応する学習環境づくり (7) 健全な心身を育む部活動ができる環境づくり (8) 地域防災の拠点となる交流環境づくり (9) さらなる幼保小連携教育の推進
---------	---

新中学校の設置場所	サンA川南文化ホール・町立図書館東側及びその周辺
開校時期	令和8年度

計画の内容	<p>唐瀬原中学校と国光原中学校を新中学校に統合する。 令和3年度から令和7年度までの計画 基本計画、基本設計、実施設計、建設工事</p>
-------	---

学校名	計画の内容	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
唐瀬原中学校	移転新設により両校を 新中学校へ統合する。	█	█	█	█	█	█
国光原中学校		█	█	█	█	█	開校

令和3年12月
川南町

令和8年度 川南町立新中学校開校

(ザン川南文化ホール・図書館東側及びその周辺)に向けたこれまでの主な経緯 と 今後のスケジュール



住民への説明と意見交換会

アンケート調査2回実施



- 住民説明会 (11回) 住民座談会 (4回)
- 各種団体代表と有識者による審議会 (9回)
- 1 両中学校を統合し、町立中学校を1校とする。
 - 2 新しい時代に対応した川南町の中学校教育のあり方について

- アンケート調査2回実施
- 1 両中学校の統合について
 - ①賛成 57.1% ②反対 9.6%
 - 2 新中学校の設置場所について
 - ①ザン川南文化ホール・図書館東側及びその周辺 63.6%
 - ②唐瀬原中学校 19.9%
 - ③国光原中学校 8.3%

議 会

令和3年12月議会定例会で
「川南町立中学校統合整備基本計画
(両中学校の統合と設置場所)」について【可決】

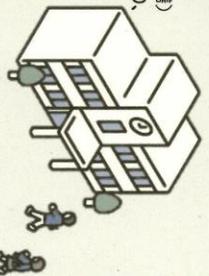
教育委員会

令和元年 中学校統合の確認
令和3年 設置場所と基本計画を可決
「ザン川南文化ホール・図書館東側及びその周
辺」と「中学校統合基本計画」について可決する。

今月の上旬、町内全世帯に配布した新中学校に関するチラシ

！ 中学校統合概算事業費の今後40年間の比較

- ①唐瀬原中学校(現校舎)を利用した場合
31億1700万円(一部校舎の運営・改修・修繕)
※現在の校舎は、一部が建設から50年が経過しており、いずれ運営が必須となります。その解体、建設に伴う仮設リビング校舎の建設費を含みます。
- ②新中学校(中心部)に建設した場合
43億9200万円(新校舎整備及び経常修繕)
※運動場・体育館・ホール等其他設備を含みます。
※各種補助金、基金や起債で対応



(事業費は令和3年6月の試算額)

★この統合・学校新設によって住民税等に影響はありません。

問合せ先：川南町教育委員会 (0983-27-8019)
令和4年5月9日 川南町役場 発行

年 日 程	事 項	内 容
H28 3月	まち・ひと・しごと創生総合戦略策定 小中学校再編検討開始	中学校統合及び新中学校を設置することを示す。 定例教育委員会で小中学校の再編を検討
6/28	学校再編に関する座談会	6地区(各小中学校)を巡回し、現状説明と意見交換の実施
7/25～8/29	アンケート調査	町立学校再編に関するアンケート調査を実施
11月	アンケート調査	唐瀬原中学校区、国光原中学校区 アンケート調査結果を保護者へ配布及びホームページに掲載
H29 1/30、2/6	学校再編に関する座談会	唐瀬原中学校区、国光原中学校区 アンケート調査結果を保護者へ配布及びホームページに掲載
2/11	アンケート調査結果配付及び公表	アンケート調査結果を保護者へ配布及びホームページに掲載
H30 2/7～5/11	学校再編に関する説明会	学校再編について各自治公民館単位で説明会を実施
11/28	学校規模適正化審議会(諮問)	「両中学校を統合し、町立中学校を1校とすること」
11/28～3/11	学校規模適正化審議会開催	テーマに沿った審議を4回開催
H31 3/22	学校規模適正化審議会開催(答申)	「少子化が進む中、両中学校の統合はやはり得ない」 教育委員会において中学校統合の確認
R1 6/27	教育委員会開催 臨時PTA会長会	学校再編に関する説明の実施
R2 10/26	行政座談会	6地区を巡回した行政座談会の中で、学校再編に向けての説明
R3 2/22～3/12	アンケート調査及び公表	新設中学校についてアンケート調査を実施 小中学校及び保護者等の保護者1,425 一般住民 500 配布数合計 1,925 (回収率:70.4%) 回収数合計 1,355 (回収率:70.4%)
5/25	学校規模適正化審議会(諮問)	1 川南町立中学校の統合に係る基本方針 2 新中学校の原補地について
5/25～8/10	学校規模適正化審議会開催	テーマに沿った審議を5回開催
8/12	学校規模適正化審議会(答申)	1 川南町立中学校の統合に係る基本方針については、「4つの目指す学校像」と「9つの基本コンセプト」の実現に向けて取り組んでいきたい。 2 新中学校の原補地は、「ザン川南文化ホール・図書館東側及びその周辺」
10、11月	新中学校町民説明会 臨時教育委員会	各小学校5校で開催
11/9	新中学校町民説明会	「ザン川南文化ホール・図書館東側及びその周辺」と「中学校統合基本計画」について【可決】
11/9	定例教育委員会	「川南町立中学校統合整備基本計画について」審議の結果【可決】
12/14	川南町議会12月議会定例会	「川南町立中学校統合整備基本計画」について提案・審議の結果【可決】
R4	新中学校設立推進委員会	保護者、教職員を委員とする専門部会で協議開始
R5	新中学校計画	基本計画の策定及び建設予定地の土地の一部を取得予定
R6	建設設計・工事関係 新中学校建設予算等	基本設計・実施設計、造成工事等
R7	新中学校建設工事	議会に提案、入札、工事着手
R8	新中学校 閉校(予定)	年度内に完成 令和8年4月1日 新中学校開校

新中学校の基本コンセプト

令和8年度新中学校開校予定

1 新中学校の目指す学校像

- (1) 夢に挑み、学び続ける学校
- (2) 仲間とともに切磋琢磨する学校
- (3) 地域とつながり、地域ともに歩む学校
- (4) 誰もが行きたくなくなるような魅力のある学校

2 9つの基本コンセプト

- (1) 学校を核とした地域づくりの推進
- (2) 活力ある学校環境づくり
- (3) 全ての生徒にとって過ごしやすい安心な学校環境づくり
- (4) 安全に通学できる地域環境づくり
- (5) 学力向上を目指す充実した教育環境づくり
- (6) 多様化する社会に対応する学習環境づくり
- (7) 健全な身心を育む部活動ができる環境づくり
- (8) 地域防災の拠点となる交流環境づくり
- (9) さらなる幼保小連携教育の推進

新型コロナウイルス感染症に伴う経済対策等について

令和4年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の交付限度額

= 110,255,000円（当初決定分）

+ 74,531,000円（4月28日追加分）

上記の交付金を活用する主な事業（5月現在）

①特産品送料助成金 = 40,000,000円

②住宅リフォーム助成金 = 20,000,000円

③マイナポイント(第2弾)上乗せ助成事業 = 24,800,000円

なお、その他の事業にも活用してまいります。

キーワードを入力

| Q

トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

新規1年目の売上1000万円超——支援制度が充実、宮崎で農業に挑む移住者たち

4/16(土) 17:01 配信 38

Yahoo! ニュース
オリジナル **特集**



東京から移住してきた佐師夫妻 (写真: 川南町)

深刻な社会問題になっている「地方の人口減少」と「農家の担い手不足」。この二つをいっぺんに解決させる取り組みをしている自治体がある。宮崎県川南町は移住支援、農業研修、販路の確保といった手厚いサポートで、成果を上げ始めている。人口1万5千人の小さな町の取り組みは、全国のモデルケースとなるのか。現地取材した。(文・写真/ジャーナリスト・小川匡則/Yahoo!ニュース オリジナル 特集編集部)

政策による転入者の増加数は、県内の町村の部において、5年連続の1位です！！
先月は、Yahooニュースオリジナル特集記事に、本町の「トレーニングハウス」に関する事例が紹介されました！

なお、この政策の主な財源は、「ふるさと納税」です。順調に推移しております。

また、当該寄付金を積立てしております「ふるさと振興基金」の額は、令和4年3月末現在で、約13億4千万円です。

町単独の支援助成金を創設し、農家の担い手不足の解消に取り組みます。合わせて人口対策も引き続き積極的に進めてまいります。

新規就農者生活支援助成金(トレーニングハウス関連)

地域活性化拠点施設 かわみなみ PLATZ（ぷらっつ）の活況

令和2年にオープンし、2年連続の黒字化を達成！！

18



総合福祉センターの整備

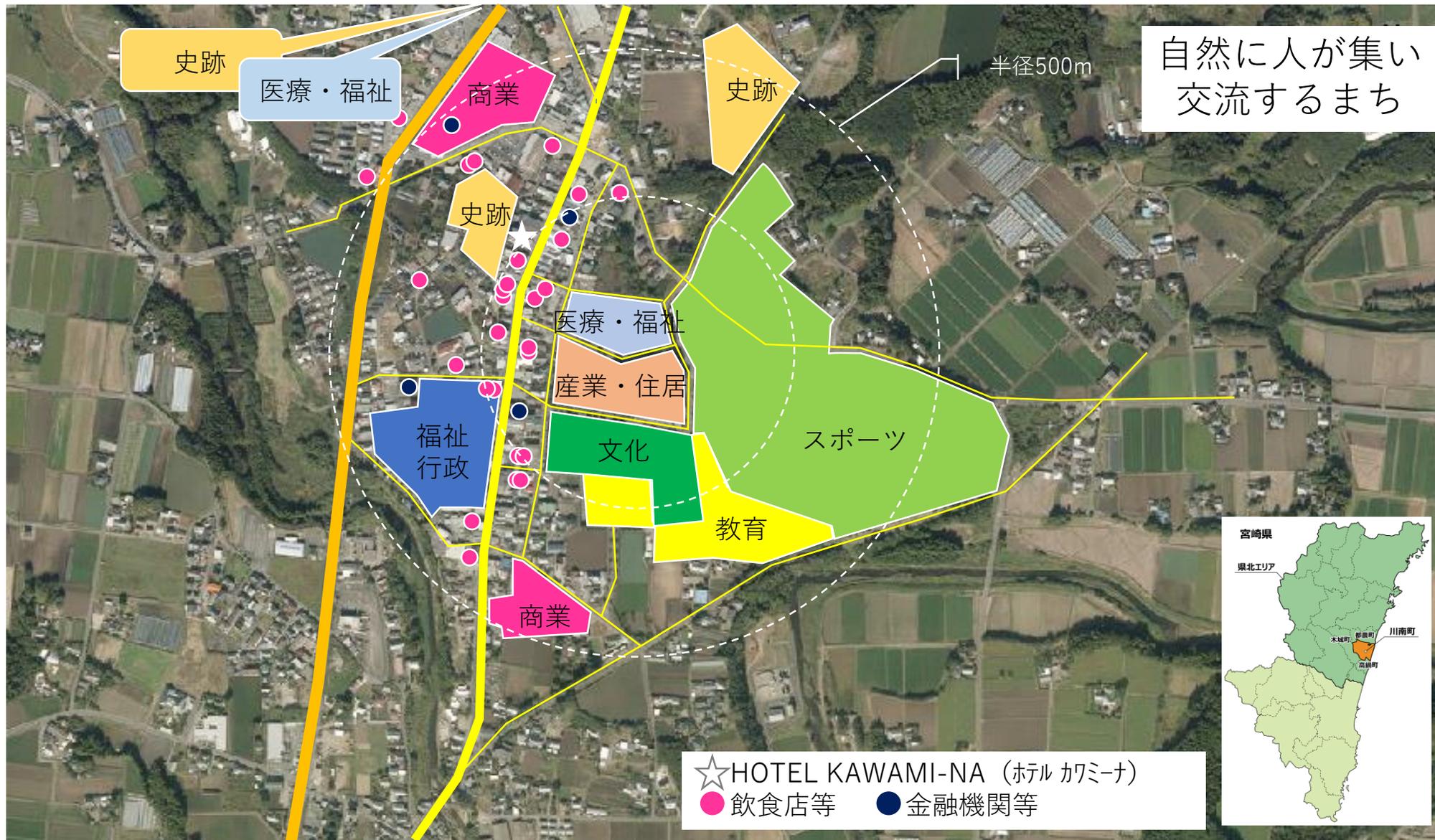
にぎわい創出

- ・ 総合福祉センター令和4年10月供用開始
- ・ 多世代が集い、交流し、自然と歩きたくなる健康で幸せな生活が送れるシティデザイン

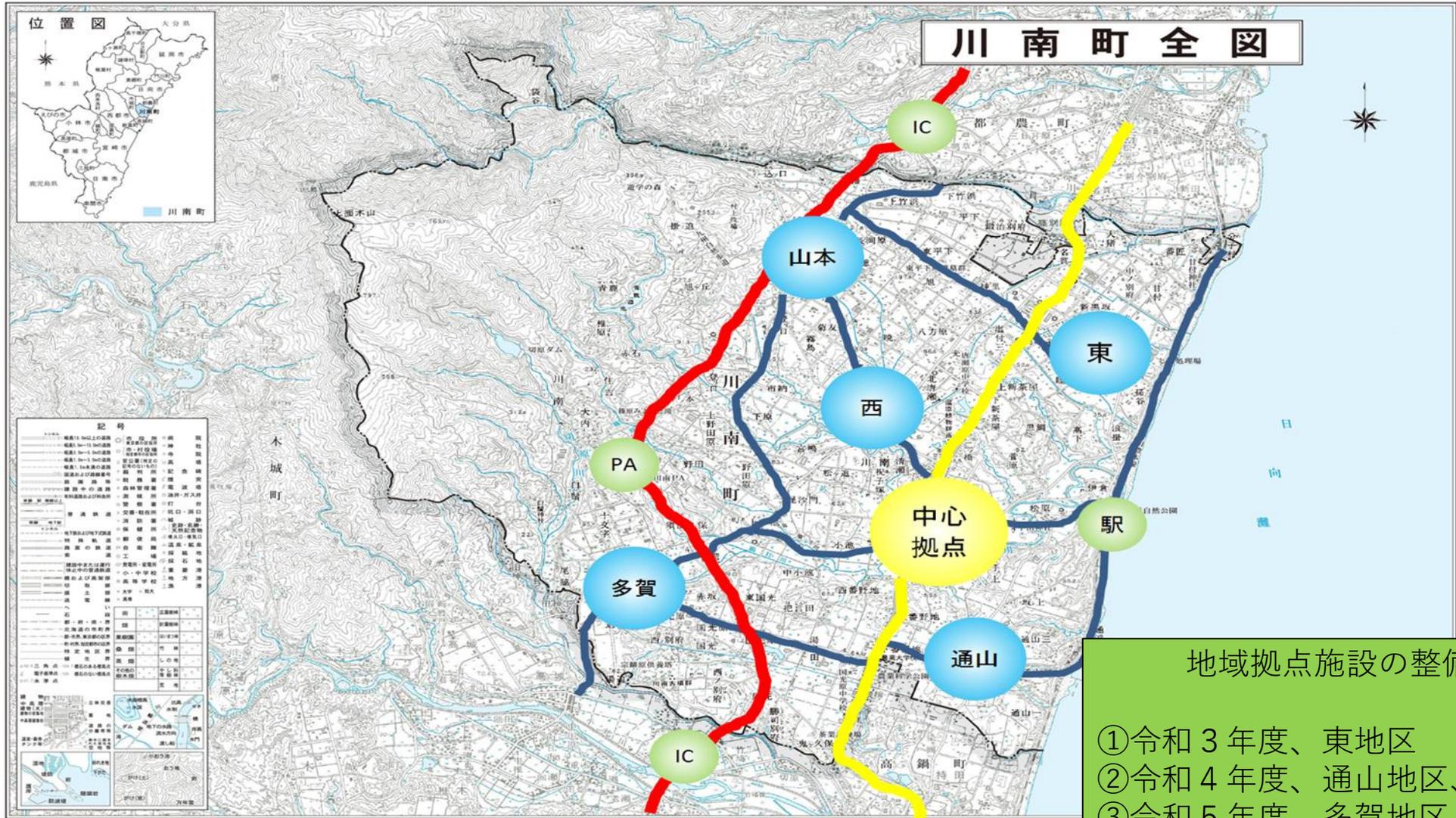


中心拠点のまちづくり

20



中心拠点と各自治公民館を中心とする地域拠点構想



地域拠点施設の整備状況

- ①令和3年度、東地区
- ②令和4年度、通山地区、山本地区
- ③令和5年度、多賀地区

平成27年8月

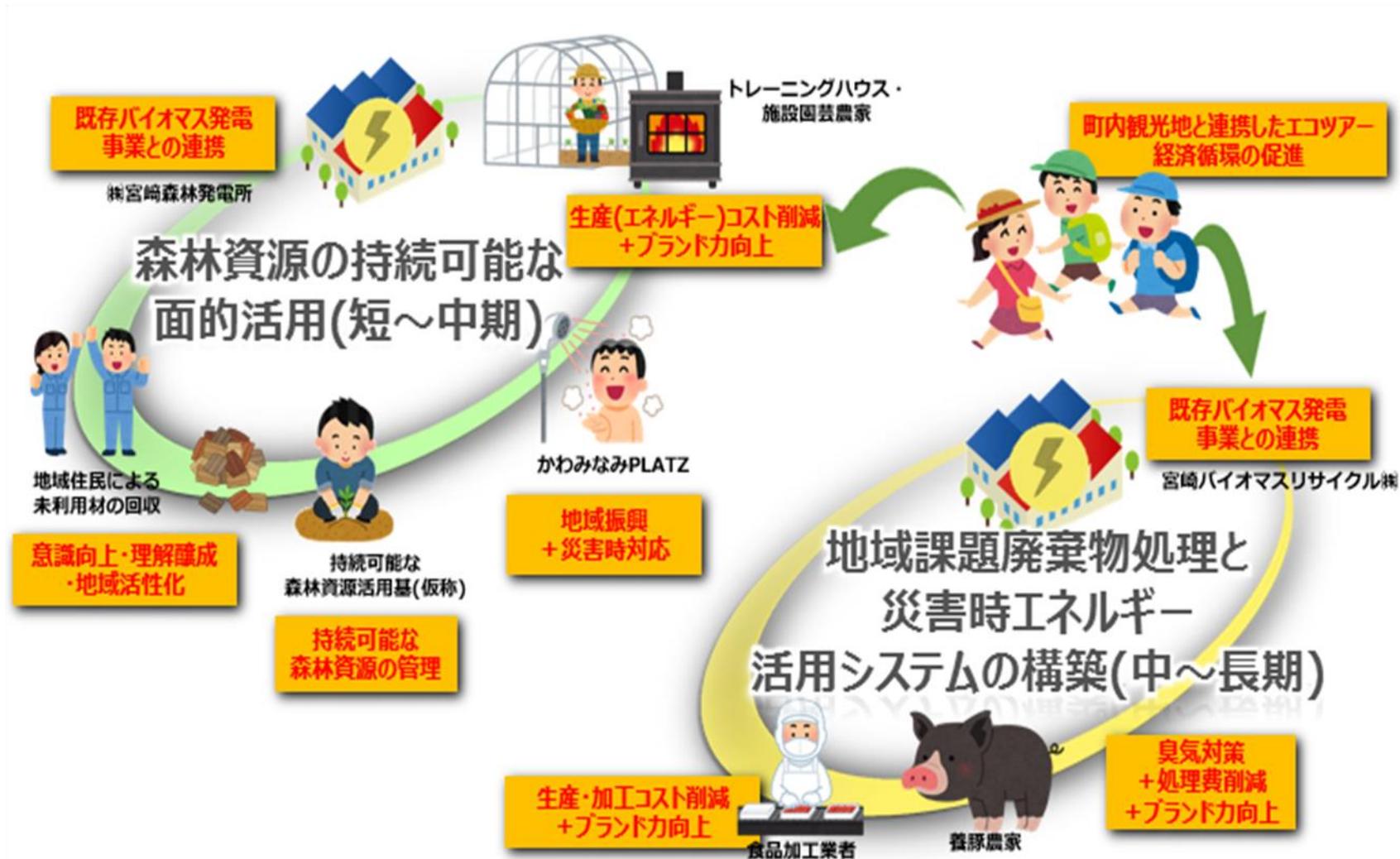
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図50000(地図画像)及び電子地形図25000を複製したものである。(承認番号 平27情保 第300号)」



川南町 バイオマス産業都市構想

地域バイオマスを活用した環境にやさしく災害に強い、地域資源循環型社会の構築

23



令和4年度の重点取組

(1) 人口減少対策

移住・定住政策を積極的に進めます！

当該政策の財源は、好調であります「ふるさと納税」及び「企業版ふるさと納税」が中心です。
自主財源の確保対策もより一層取り組みます。

政策による転入者の増加数は、県内の町村の部において、5年連続の1位です！！

『川南をPRする。体験する。移住する等、戦略的かつ段階的な進行管理に努めます。』

- ➡ 地域おこし協力隊員の受入れ
- ➡ 定住促進持家取得助成金
- ➡ 新婚家庭生活支援助成金
- ➡ 町内雇用者等生活支援助成金（町内の事業所に正規雇用として勤務している方への家賃助成）
- ➡ ひなた暮らし実現応援支援金
- ➡ 空き住宅改修事業補助金
- ➡ 県移住マッチング支援事業交付金
- ➡ 移住定住促進サイト保守委託
- ➡ 県外からの移住者支援助成金

令和4年度の重点取組

(2) 子育て支援策

子育て支援にも積極的に取り組みます！

前述しましたが、子育て世代を中心に定住化(持ち家取得等)に効果が表れています！！

25

- ☞ 子どもがほしい家庭に一般不妊治療への助成
- ☞ 子どもがほしい家庭に特定不妊治療への助成
- ☞ 幼児を保育所等に預けたい家庭に保育料を軽減
- ☞ 病児・病後児保育(総合福祉センター内)
- ☞ 子育て世代の医療費負担を軽減するため、18歳までの医療費について助成
- ☞ 高等学校等に通う子どもを持つ世帯に修学支援金を助成
- ☞ 川南駅を利用する通学生に、駅までの無料シャトルバスを運行

令和4年度の重点取組

(3) 教育の充実に関する施策

- ☞ 町立中学校統合整備実施計画策定業務委託
- ☞ 中学3年生を対象とした公営塾の実施(令和2年度から実施中)
- ☞ 多賀小学校プールデッキ改修工事

(4) 福祉の充実に関する施策

- ☞ 総合福祉センター供用開始(令和4年10月～)
- ☞ 地域ふれあいサービス事業委託

(5) 地域活性化に関する施策

- ☞ 通山地区コミュニティセンター改修工事
- ☞ 山本、多賀地区コミュニティセンター改修設計等委託
- ☞ 地域集会施設建設等補助金

(6) 防災に関する施策

- ☞ 地域防災計画改定及び受援計画策定業務委託
- ☞ 避難誘導等看板設置委託

(7) 担い手育成等に関する施策

ア 担い手確保、育成

- ☞ 新規就農者生活支援助成金(トレーニングハウス関連)
- ☞ 農業次世代人材投資事業費補助金
- ☞ 農業後継者支援給付金
- ☞ 新規就農者育成総合対策事業補助金
- ☞ 創業者支援事業補助金
- ☞ 水産業人材育成投資事業補助金

イ 現役世代支援

- ☞ 次代につなぐ園芸産地づくり事業補助金
- ☞ 持続可能な農業のための青年農業者支援事業補助金
- ☞ 優良肉用繁殖牛導入資金貸付金
- ☞ 肉用牛受精卵移植推進事業補助金
- ☞ 優良肉用繁殖牛導入等補助金
- ☞ スマート畜産支援事業補助金
- ☞ 漁業機器等導入支援事業補助金
- ☞ 交流施設改修等補助金
- ☞ 商工業振興支援事業補助金
- ☞ 商店街活性化委託事業

改革（開拓）を積み重ね続ける風土の中で、
人が育ち、
若者が常にチャレンジできて、
働きがいのある仕事場があり、
高齢者がいつまでも健康に暮らし、
子育て、教育に最適な施設と福祉環境を備えた、
誰もが住みたいと思う、
豊かで美しい農山漁村の再生を目指すことが、
未来に向けた新しい川南づくりへの
揺るぎないビジョンである、と私は考えます。

人口減少社会という希望

豊かで美しい

「開拓し続ける気概の醸成と農山漁村の再生」

29

新たな時代の新たな価値観

「豊かさ」と「幸せ」はそこにある。

私たちの未来、人口減少社会は
可能性と希望に満ちている！